

マルコ 9 : 30-50

「謙虚に仕える姿勢は、クリスチャン弟子訓練の要」

9:30 さて、一行はそこを去って、ガリラヤを通過して行った。イエスは、人に知られたくないと思われた。 9:31 それは、イエスは弟子たちを教えて、「人の子は人々の手に引き渡され、彼らはこれを殺す。しかし、殺されて、三日の後に、人の子はよみがえる」と話しておられたからである。 9:32 しかし、弟子たちは、このみことばが理解できなかった。また、イエスに尋ねるのを恐れていた。 9:33 カペナウムに着いた。イエスは、家に入った後、弟子たちに質問された。「道で何を論じ合っていたのですか。」 9:34 彼らは黙っていた。道々、だれが一番偉いかと論じ合っていたからである。 9:35 イエスはおすわりになり、十二弟子を呼んで、言われた。「だれでも人の先に立ちたいと思うなら、みなものしがりとなり、みなに仕える者となりなさい。」 9:36 それから、イエスは、ひとりの子どもを連れて来て、彼らの真ん中に立たせ、腕に抱き寄せて、彼らに言われた。 9:37 「だれでも、このような幼子たちのひとりを、わたしの名のゆえに受け入れるならば、わたしを受け入れるのです。また、だれでも、わたしを受け入れるならば、わたしを受け入れるのではなく、わたしを遣わされた方を受け入れるのです。」 9:38 ヨハネがイエスに言った。「先生。先生の名を唱えて悪霊を追い出している者を見ましたが、私たちの仲間ではないので、やめさせました。」 9:39 しかし、イエスは言われた。「やめさせることはありません。わたしの名を唱えて、力あるわざを行いながら、すぐあとで、わたしを悪く言える者はないのです。 9:40 わたしたちに反対しない者は、わたしたちの味方です。 9:41 あなたがたがキリストの弟子だからというので、あなたがたに水一杯でも飲ませてくれる人は、決して報いを失うことはありません。これは確かなことです。 9:42 また、わたしを信じるこの小さい者たちのひとりにでもつまずきを与えるような者は、むしろ大きい石臼を首にゆわえつけられて、海に投げ込まれたほうがましです。 9:43 もし、あなたの手があなたのつまずきとなるなら、それを切り捨てなさい。片手でいのちに入るほうが、両手そろっていてゲヘナの消えぬ火の中に落ち込むよりは、あなたにとってよいことです。 9:45 もし、あなたの足があなたのつまずきとなるなら、それを切り捨てなさい。片足でいのちに入るほうが、両足そろっていてゲヘナに投げ入れられるよりは、あなたにとってよいことです。 9:47 もし、あなたの目があなたのつまずきを引き起こすのなら、それをえぐり出しなさい。片目で神の国に入るほうが、両目そろっていてゲヘナに投げ入れられるよりは、あなたにとってよいことです。 9:48 そこでは、彼らを食ううじは、尽きることがなく、火は消えることはありません。 9:49 すべては、火によって、塩けをつけられるのです。 9:50 塩は、ききめのあるものです。しかし、もし塩に塩けがなくなったら、何によって塩けを取り戻せましょう。あなたがたは、自分自身のうちに塩けを保ちなさい。そして、互いに和合して暮らしなさい。」

## はじめに

イエスは、新しい教えの段階へと進まれました。

2か月前に学んだマルコ 8 : 31 からがその該当箇所です。

マルコの福音書のこの箇所から、イエスは弟子たちにとって衝撃的な理解しがたいことを教えはじめられました。

それは、イエスが苦しんで死に、死後によみがえるという内容でした。

イエスは、栄光を受ける前に苦しむことは、弟子として訓練を受ける上でのパターンでもあると弟子たちにおっしゃいました。

マルコ 8:34 それから、イエスは群衆を弟子たちといっしょに呼び寄せて、彼らに言われた。「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。」

先月、マルコ 9 : 1-13 を学び、イエスがペテロとヤコブとヨハネに栄光を垣間見せられたことがわかりました。

この経験によって、イエスのそばにいた弟子たちは、いつの日かイエスが栄光を帯びて戻ってこられることを確信しました。彼らは天国を少し体験したのです。

この教えは、すべてのクリスチャンを励ましてくれます。  
死後、イエスが栄光をもって治められる場所ですばらしい人生を送れると知ることは、私たちの励みとなるはずです。

私たちは弟子たちといっしょに山の上にはいませんでしたが、彼らの証を信用しなければなりません。

私たちは死後、いつか死からよみがえって、イエスの栄光に満ちた新しい地に住めます。そこには、永遠のいのちを脅かす罪も死も病気もありません。この事実を確信できれば、大いに励まされます。

私たちは、この3人の弟子たちが2000年前にしたような体験はできないでしょう。

しかし、クリスチャンには内住の聖霊がおられます。

この聖霊が、人生のあらゆる局面で私たちを励ましてくださいます。

死に直面して、すばらしい聖霊体験をしたという人の話を聞いたことがあります。イエスご自身のご臨在を体験したという話もあります。

神は、私たちに必要な体験を必要なときに与えてくださいます。

当時のイエスの弟子たちの問題は、イエスの栄光だけを体験したいと願ったことです。

彼らは、イエスの苦しみを経験することを望みませんでした。そんなことは考えたくもありませんでした。

弟子たちは、イエスが苦しむ必要性を理解できませんでした。

イエスはペテロを諷められました。それは、ペテロがこのことを理解できなかったからです。

(マルコ 8 : 32)

また、イエスが死からよみがえるということも、弟子たちは理解できませんでした。

また、彼らは祈りと断食によってイエスに頼り切っていなかったため、悪霊を追い出すことができませんでした。

この続きとなる今日の個所で、イエスのご自身の働きに関する誤解を解こうとなさいます。

イエスは、弟子訓練に対する弟子たちの考え方を正さなければなりませんでした。

今日の聖書箇所は大きくふたつにわけてお話ししましょう。

### **1. 謙虚になることへの呼びかけ (9 : 30-37)**

私たちの生きる現代社会は、なんでも一番なることを奨励する競争社会です。

他の企業よりもいち早く新商品を開発することが企業の成功のカギです。

過去約30年間にわたり、日本の大企業は20年後の世界を見越すためにアメリカやイギリス、ヨーロッパ諸国から人材を集めました。

そして、その世界がどのような姿であるかイメージできたら、その新しいライフスタイルに合う商品を開発するのです。

今日、自動運転車やスマートフォン、太陽光発電住宅など、約30年前にその歩みが始まった発明がたくさん実用化されています。

ですから、スピードも質も量も一番になろうとすることが、私たちの社会通念です。

これは、私たちの遺伝子の一部なのです。

ですから、イエスが弟子たちにおっしゃった一番後のものが先になるという教えは、弟子たちの考えには合いませんでした。

正直なところ、私たちの考え方にも合わないでしょう。

では、30-37節から、イエスがどのように弟子たちの考え方を正されたのか検証しましょう。

33節で、イエスはカペナウムに着いて家で弟子たちに教えられました。

イエスはお尋ねになりました。「道で何を論じ合っていたのですか。」

弟子たちは黙っていました。自分たちが言い合っていた内容をイエスに知られたくなかったのでしょう。

けれども、イエスは話の内容をすでにご存知でした。というのも、イエスは私たちの心の中も、考えも、会話の内容もすべてお見通しだからです。

弟子たちが心の内を明かそうとしないのを知って、イエスは彼らに本物の弟子訓練について座って教えることになりました。

イエスが座られたことで、それは公式の非常に大切な教えとなります。

西洋文化では、教師は立って教えますが、当時、先生が座って教えるというのは、重大な教えである証でした。ですから、生徒は注意深く教えを受けなくてはなりません。

まず、イエスは弟子たちにおっしゃいました。「だれでも人の先に立ちたいと思うなら、みなのがりとなり、みなに仕える者となささい。」

こうおっしゃった後、イエスはその意味を説明なさいます。

小さな子を抱き上げて、おっしゃいました。「だれでも、このような幼子たちのひとり、わたしの名のゆえに受け入れるならば、わたしを受け入れるのです。また、だれでも、わたしを受け入れるならば、わたしを受け入れるのではなく、わたしを遣わされた方を受け入れるのです。」

ここで、いくつかの文化的背景を理解する必要があります。

まず、当時のイスラエルでは、子どもには社会的地位は一切ありませんでした。

つまり、社会の底辺の者とみなされていたのです。

子どもは教えを聞く集まりには入れませんでした。イエスが弟子たちを教えておられたときのような集まりもそうです。

次に、社会的地位は、当時の文化で重要視される一面でした。

誰もが社会で特定の地位に属していました。

日本人の方のほうがこれは理解しやすいかもしれませんが、今日の西洋文化は、これとはずいぶん違います。

ですから、イエスが教えを中断して子どもを連れてこられたことは、文化的に大きく逸脱した行為です。

弟子たちにとっては衝撃的だったことでしょう。

弟子たちは、この出来事を決して忘れないはずで

では、イエスは弟子たちにどんな真理を伝えようとしておられたのでしょうか。そして、私たちの日常生活に役立つ教えは何でしょう。

イエスは弟子たちに、以下の事柄を教えようとなさっていました。

**a) 本物の弟子訓練は、この世が機能するのと正反対の考え方である。**

イエスは、弟子たちの心の中のプライドを明らかにしようとなさいました。

プライドは、自分でも気づかないほど巧妙な心の中にあるサタンの影響です。弟子たちは、誰が一番えらいかと道々口論していました。

それが後に問題へと発展することをイエスはお存知でした。それで、弟子たちに面と向かって警告することになりました。

悪魔が神に逆らったのも、プライドが原因でした。

プライドは、とてもわかりにくく、あらゆる形であらわれます。

プライドの罪に心を支配されてしまったら、大きな問題を引き起こします。

争い、離婚、国と国なら戦争にも発展します。

クリスチャンも例外ではなく、プライドの誘惑を受けます。

**b) 本物の弟子訓練には、謙虚さが伴う。**

謙虚さを言葉で説明するのは難しいのですが、見ればすぐにわかります。

次のように言った人もいます。「私たちは本当の意味で偉大には一生なれない。謙虚さを身に付けるまでは、最高の仕事はできない。」

謙虚さの一番の模範は、イエスのようなことです。

イエスは神であったのに、しもべとされました。

ネパールのヤギの話は、プライドを乗り越えるために必要なことを教えてくれます。

ネパールには、高い山の斜面に生息する野生のヤギがいます。斜面の道は、1匹のヤギが歩くのにやっとの幅です。

ある日、一人の宣教師がこの細い斜面の道を歩いていました。

そのとき、二匹のヤギが向き合っているのに気付きました。

二匹はそれぞれ反対の方向に行こうとしていますが、すれ違うことはできません。

二匹がけんかをして勝ったほうが前に進むか、二匹ともけんかしているうちに滑落するかもしれません。

宣教師がその様子を観察していると、驚くようなことが起こりました。

大きなほうのヤギが地に伏せて、頭を低くしたのです。

小さいほうのヤギは、伏せたヤギの背の上を歩いていき、そのまま進んでいくことができました。

その後、大きなほうのヤギも自分の行こうとしていた方向に進んでいきました。

大きいほうではなく小さいほうのヤギが道を譲るだろうと想像してしまいましたが、そうではありません。

神は、争いを回避させる謙虚さについてこの宣教師に語られました。彼は、この経験をとおして大切なものを得ました。

### c) 本物の弟子訓練には、奉仕における仕える姿勢が伴う。

自己満足や見返りを求めてではなく、イエスのために人に仕えるのです。

弟子たちは、奉仕においてイエスに仕え、良い人にも悪い人にも社会のすべての人に福音を届けられるように、整えられていました。

イエスの弟子になるとは、イエスに仕えることです。

OICでの奉仕はすべて、イエスに仕えることであるということを忘れてはいけません。準備の担当、片付けの担当、受付係など、どんな奉仕でも、OICという教会のもとでイエスのために仕えているのです。

私がOICに牧師として就任してから、とても励まされることのひとつは、多くの人がどんな小さな奉仕でも喜んでイエスに仕えてくださることです。

今日は、2018年最初の日曜日です。あなたがイエス・キリストを信じる信徒で、現在OICの奉仕に関わっていないなら、今が始めるチャンスです。

奉仕の場はたくさんあります。やる気さえあれば、神は徐々に私たちを整えていってくださいます。

奉仕の資格はやる気と謙虚さであって、能力を示す資格ではありません。

### d) 本物の弟子訓練には、古い自分の生き方を神に完全に明け渡すことを伴う。

そうすることによって、聖霊をとおして神が私たちを謙虚さと仕える心のある新しいのちで満たしてくださいます。

私たちの古い生き方は、プライドが高く、自分のことばかり考えていました。それをすべてイエスに明け渡さなければなりません。

主なる神に抵抗しないでください。勝ち目はありません。

では、今日の個所の後半に入ります。

## 2. 互いに平和を保つ。(38-50節)

この個所は、弟子たちがまたもや失敗するところから始まります。

38節で、弟子たちはイエスに従っている仲間でない人がイエスの名によって悪霊を追い出しているのを認めませんでした。

イエスの名で悪霊を追い出していた人物について詳しくはわかりませんが、次のみことばから、悪霊を追い出すなどの奇跡は、イエスをとおして神とつながっていることの証ではないことがわかります。

### マタイ 7 : 21-23

7:21 わたしに向かって、『主よ、主よ』と言う者がみな天の御国に入るのではなく、天におられるわたしの父のみこころを行う者が入るのです。 7:22 その日には、大ぜいの者がわたしに言うでしょう。『主よ、主よ。私たちはあなたの名によって預言をし、あなたの名によって悪霊を追い出し、あなたの名によって奇蹟をたくさん行ったではありませんか。』 7:23 しかし、その時、わたしは彼らにこう宣告します。『わたしはあなたがたを全然知らない。不法をなす者ども。わたしから離れて行け。』

イエスの答えは、イエスの名によって悪霊を追い出していた人に対する承認というよりは、弟子たちに対する謙虚さへの呼びかけであったと取れます。

41 節で、イエスは弟子たちがコップ一杯の水ほどの些細なことでもしてもらったなら、それを軽視してはいけないとおっしゃいます。

つまり、悪霊を追い出す奇蹟をおこなっていた人が本物のイエスの弟子でなかったとしても、イエスはそのおこないを良いことのために用いることがおできになります。

40 節で、イエスは、「わたしたちに反対しない者は、わたしたちの味方です。」とおっしゃいました。

後に、弟子たちはこの真理を思い出さなければならなくなります。

イエスは続いて、42-50 節で弟子たちにいくつかのことを警告なさいます。

それぞれの警告を告げた後に、イエスは弟子たちに地獄が現実であることを警告なさいます。

イエスはイザヤ書 66 : 24 を引用しておられます。

ここで、文脈をとらえてその個所を読んでみましょう。

### イザヤ書 66 : 22-24

66:22 「わたしの造る新しい天と新しい地が、わたしの前にいつまでも続くように、——【主】の御告げ——あなたがたの子孫と、あなたがたの名もいつまでも続く。 66:23 毎月の新月の祭りに、毎週の安息日に、すべての人が、わたしの前に礼拝に来る」と【主】は仰せられる。 66:24 「彼らは出て行って、わたしにそむいた者たちのしかばねを見る。そのうじは死なず、その火も消えず、それはすべての人に、忌みきらわれる。」

この個所でイエスが弟子たちに教えようとなさっていることは、聖書学者でなくてもわかります。

イエスが弟子たちに教えておられたのは、神の目に罪は深刻なものであり、罪を犯せばその結果がついてくるということです。

私たちはクリスチャンになる前、生まれながらに罪の性質を持っているということを納得できませんでした。罪の性質が私たちに罪深い行いをさせるということがわからなかったのです。

私たちが罪を理解できるように、神は生きるための 10 の規則を与えてくださいました。

これらの規則は、出エジプト記 20 : 1-7 および申命記 5 : 1-20 に記されています。

では、それらを読んでみましょう。

1. あなたには、わたしのほかに、ほかの神々があってはならない。—日本で参拝や祈祷の目的で神社仏閣に行くのは罪ということです。
2. あなたは、自分のために、偶像を造ってはならない。上の天にあるものでも、下の地にあるものでも、地の下の水の中にあるものでも、どんな形をも造ってはならない。それらを拜んではならない。それらに仕えてはならない。—私たちの心の中に偶像はないでしょうか。
3. あなたは、あなたの神、【主】の御名を、みだりに唱えてはならない。—そういうことをする人はたくさんいます。これは、神の目には罪です。

4. 安息日を覚えて、これを聖なる日とせよ。—私たちはちゃんとできていますか。
5. あなたの父と母を敬え。
6. 殺してはならない。
7. 姦淫してはならない。
8. 盗んではならない。
9. あなたの隣人に対し、偽りの証言をしてはならない。
10. あなたの隣人の家を欲しがってはならない。すなわち隣人の妻、あるいは、その男奴隷、女奴隷、牛、ろば、すべてあなたの隣人のものを、欲しがってはならない。

十戒の内容を聞いて、ほとんどの人は守れていると思うでしょう。けれどもイエスは、実際にはしなくてもしようと思っただけです。これだと、ずいぶんハードルが上がります。

正直なところ、私たちは皆、神の規則を少なくともひとつは破っていて、皆有罪です。今日私たちにとって大切なことは、私たちが神の罰をうけて永遠に地獄で過ごすべき者であるのに、イエスがそこから逃れる道を与えてくださったということです。この逃れる道を与えるために、神にとってもイエスにとっても大きな犠牲が伴いました。

神のほうでこのような犠牲的な行為をしてくださったおかげで、私たちは今日、聖餐式に与れるのです。

私たちにはふたつの選択肢が与えられています。

聖餐式に参加することもできます。または、回ってきたパンとぶどうジュースを受け取らないこともできます。

決めるのはあなたです。プレッシャーは一切ありません。

けれども、今日クリスチャンになろうと思ったら、イエス・キリストを受け入れるために祈ることができます。まず、自分の罪を神に謝罪し、神の赦しを求めます。

そうすれば、初めての聖餐式に参加し、自分の罪のために死んでくださったイエスの御業を覚えることができるのです。

これから祈ります。その中で、今日クリスチャンになりたい人のために、神に応答するチャンスも設けます。

では祈りましょう。